

関西詩人協会会報

第92号
2019.1.10

発行者 左子真由美

新年のご挨拶 (代表 左子真由美)

みなさまあけましておめでとうございます。よい年の初めをお迎えになられたことと思います。平素は関西詩人協会にご尽力、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

去年は地震に始まり、酷暑、台風など災害に見舞われた一年でした。協会の会員の方も少なからず被害を被られたことと思います。今年が平穩無事に、そして平和な一年でありますよう祈っております。

去年の総会でもお話させていただきましたが、本年は関西詩人協会が設立されて25年目に当たります。早いもので四半世紀を迎えました。設立されたのが、1994年、平成6年10月30日ですので、振り返るとこの協会にもすでに、歴史と伝統が作られつつあるということですので。そして、今年が25年という節目に当たることから、歴史と伝統の大切さは保持しつつも、一度初心に帰ってみるということも大切なことではないかと考えております。

今年はいままでになかった新しい企画もあります。みなさま楽しみにしてください。そして、ぜひぜひお出かけください。詩は私たちを楽しませてたり、励ましてくれたり、出会いまで演出してくれます。あなたにもきっと新しい何かが始まることと思います。みなさまのご健勝とますますのご健筆を祈りつつ、年始のことばとさせていただきます。

総会の報告

11月18日は二日前は雨との予報だったが、雲がどこへ退散したのか朝から良いお天気だった。参加者76名(講師と外部・8名を加えて)だった。会はきびきびした総合同司会、北村真さんによって進められた。

まず、今期亡くなられた日野友子さん、清林保さん、ごく最近亡くなられた運営委員を何度もしてくださった佐古祐二さんに黙祷を捧げた。

開会の挨拶が左子真由美代表よりあった。「今年も関西詩人協会を設立して二十五周年になります。昨年も話したけれど三つのF(フリー・フラット・フレンドリー)にもう一つのF(フレッシュ)で初心に帰って頑張りましょう」という話と、故・佐古祐二さんが遺されたという「詩は虚業だと思われているかも知れないが、詩は人を助け自分を助ける実業である」という言葉を披露された。

議長は会員の今井豊さんに依頼して始められた。昨年の事業報告、会報報告、インターネット報告、会計報告がなされた。会計監査は瀬野としさんだったが、当日体調不良で欠席された。しかし、予め監査をして頂いてあったので、書類配布で了承された。会場から意見が一つあった。「会報91号のプログラムでは⑥規約改正案となっているが、今審議を求

- ① 新年のご挨拶/総会の報告
- ② 総会の報告(続)
- ③ 会員の活動/会員の今後の予定
- ④ 運営委員会の模様/決算報告
- ⑤ 会員の詩書/入会・退会/ホームページ報告/役職名変更について
- ⑥ 会員発行の詩誌/団体の会報・図書/講演・演奏・朗読の午後 報告

めないのはどういうことか。又、重大案件がある時は委任状を求めるにあたって、詳しく記すべきではないか。これには永井事務局長が応答した。「この案件というのは運営委員会の担当役職名を【議事録】から【書記】に名称変更をしようというものでした。ただ役職名は『規約』ではないから総会の了承は必要ないと運営委員会で意見の一致をみたので、今回の議題にしてないのです。もし規約改正なら、おっしゃるとおり前以て内容を示すべきでした」

続いて次年度の計画案と予算案を報告了承された。

少しの休憩の後、2の「詩を書くことをめぐって」2冊の近作詩集を中心に」という対談だったが先ず、奥村委員からお二人の紹介があった。対談については項を改めます。



3、「言葉の花火・第七」では村田委員が担当者の紹介をして、参加作品を日本語と英語(アングス氏)の交互朗読をした。読まれた作品は園田恵美子「雑草」、瀬野よしはる(市原礼子代読)「壺」、田島廣子「秘密」、近藤よしはる「粉雪」、登り山泰至(代読 紀ノ国屋千)「予報」。近藤さんは詩吟というか朗詠のような発声をされた。最後に斎藤委員が『言葉の花火』を初めて担当した感想を述べられた。

4、新会員の紹介は奥村委員と嵯峨委員が担当した。新会員13名の内4名を紹介した。山川茂さんが出席されていたのに、見落としていたのが申し訳なかった。

5、本年度出版した詩書の紹介は前に20名がズラリと並んだのが壮観だった。欠席がなければ35名43冊の処だったのだが。

6、名古屋委員が閉会の挨拶をして懇親会に移動した。

総会参加会員66名、講師と会員外が10名の合計76名の会をすることができた。

懇親会は隣の部屋に移って9名ずつの5テーブルだった。担当は藤谷、奥村、嵯峨委員。乾杯の音頭を外村文象さんに頂いて、踊りあり手品あり朗読もあり、お客様の吉田義昭さんにはアカペラでジャズを歌っていただき、あつという間の二時間だった。

総会のみ参加者

有馬敏、以倉紘平、今井豊、大西久代、尾崎まこと、かとうちかこ、香山雅代、紀ノ国屋千、清沢桂太郎、近藤よしはる、斎藤明典、佐藤勝太、島秀生、すみくらまりこ、田中信爾、長岡紀子、根来真知子、野口幸雄、三浦千賀子、村野由樹、もりたひらく、山川茂、山下俊子。(他会員外7名)

総会と懇親会参加者

秋野光子、石村勇二、市原礼子、犬飼愛生、岩井洋、内田縁、大倉元、奥村和子、和比古、神田さよ、岸田裕史、岸本嘉名男、北村真、熊井三郎、阪井達生、神次郎、嵯峨京子、左子真由美、志田静枝、白井ひかる、園田恵美子、田島廣子、田村照視、釣部与志、寺西宏之、外村文象、永井ますみ、中尾彰秀、名古屋よえ、西きくこ、原圭治、藤井雅人、藤谷恵一郎、松原さおり、松村信人、村田辰夫、安田由美子、安森ソノ子、山田兼士、山本由美子、横田英子、吉田定一。(会員外) 小池昌代さん、ノーマン・アングスさん、吉田義昭さん。(文責・永井ますみ)

小池昌代氏・山田兼士委員対談形式 詩を書くことをめぐって

——2冊の近作詩集を中心に

私の青春時代にはまだ社交ダンスの余韻が残っていて、学生が主催するパーティなどもあった。ステップの一つ二つは習ったが、どうにも好きになれなかった。というのはダンスというのはリードが上手かどうかで、巧く踊れたり躓いたりするのだが、そもそも私は男にリードされるのが嫌だった。

この対談は山田さんのリードの巧さが小池さんの美しさを引き出してくれた素晴らしい対話だったと思っただけではないと思う。スペースが限られているのでホンの一部を紹介する。

まず、小池さんの出された『ときめき百人一首』の朗読から始まった。中学二年生の子がキャアキャアと読んでいるような口語訳で、山田さんはそこから彼女独特の字余りの力を引き出された。

また『野笑』という詩集は詩画集としても出せるという詩と絵の分量だったが大幅に削られたとか、詩と絵のコラボ(お互いが独立した存在で)という

のはとても難しいという話だった。「舗道」という詩で山田さんに「土着のたくましいお母さん像に憧れているのですよね?」と言われて小池さんは納得されていた。「黒い廃タイヤの歌」では不思議なおノマトペによって歌になっている。小野十三郎の提唱した「歌と逆に。歌に。」ですよねと山田さん。

最近の詩集『赤牛と重量』から長詩「浦」の話の中で自動記述のように次々と「ウラ」という音とイメージが出て来るが、これは随分推敲してあるとか。「現代詩」と「詩」の頭に「現代」を付けている限り、現代の自分を表現したいと思っているから、一見繋がらないように見えるけど、朔太郎の「ああ浦」という呼びかけも、ポーの詩「ウラリウム」も、「うら悲しい」西行の思いも、浦を訪ね旅した飯島耕一も、「まつ帆の浦の……」と詠んだ藤原定家も、ムックの妹のラウラというメランコリーな女も、「わたしは窓の外に見たのは何千年の歳月に過ぎない」として。小池さんの乗った電車はいつのまにか、ありもしない「しぎたつさわ」という駅に着くのです。繋がらない筈のものが次々と出て来ますが、これも今現代の私のうえに現実にあつた事を繋いで書いているので、水辺を伝い歩くように読んでほしいと小池さんは言われて、何となく納得した。

お二人は華麗に踊って、しぎたつさわに着地されたのです。
(文責・永井ますみ)



会員の活動

左子真由美氏 10月、神戸北野美術館にて行われた芦屋写真協会とパリ写真クラブの合同写真展「芦屋・パリ写真家たちの愛」に「ダナンの浜辺にて」を出品。

あたるしまししょう中島省吾氏「入所待ち」(澤標)が12月5日、栃木県視聴覚センターから点字図書として出版された。広島の朗読者大谷志津子氏が9月23日に広島で開催された「秋の水辺のコンサート」で会員の詩を朗読してくださったそうです。自選詩集から西田彩子さんの「ひとすじの風」清沢圭太郎さんの「一本だけの道」他に大倉元さんの「とかくこの世は」正岡洋夫さんの「美しい島」など。

尾崎まこと氏 神戸北野美術館にて行われた芦屋写真協会とパリ写真クラブの合同写真展「芦屋・パリ写真家たちの愛」に「龍安寺のピアニシモ」を出品。

香山雅代氏 秋の定演(日本歌曲(振)波の会、出品「はばたき」詩・香山雅代、新作歌曲の会、11月27日、渋谷さくらホール、曲・山本学。

「ゲルターボーンと仲間の会」12月25日、午後6時30分より、トントレフ・ヒコ、「天・空・地、三つの歌」のうち「天空ポスト」詩・香山雅代、曲・三善有希乃、他。

熊井三郎氏 講演と朗読三題①10月14日「詩人が語る戦争・平和・九条」河合九条の会②10月18日「奈良の地理・歴史・ゆかりの詩人たち」炎樹同人会交流会③11月10日「知られざる戦時下の抵抗詩人 階戸義雄の生と詩」大阪民衆史研究会。

田村照視氏 脚本・演出の詩劇「鎮魂と復興のうた」と放送劇・原発災害を題材にした創作脚本「いのちを繋ぐ」2冊をDVD付きセットにして380の高校演劇部に送る。

戸田和樹氏 野田宇太郎献詩祭三席「石榴の花」、美濃加茂市文芸祭市長賞「白い雪」、岐阜羽島市文芸祭秀作賞「祈りのことば」、島崎藤村記念文芸祭2席「古墳から吹く風」などの受賞をされた。

中尾彰秀氏 1月13日午後2時〜4時、「EARTH POEM PROJECT」第40回、和歌山音楽文化堂。1月5日、ライブハウスTOYBOX出演、ピアノと詩朗読、ユーストリーム世界同時放映。

名古きよえ氏○京都府立ゼミナールハウスで1か月間、日本画の個展をしました。○日本画10号「思春期」を国民みらい社(東京)へ出展しました。

瑞木よう氏 11月25日のひょうご歌曲の会主催の「新しい日本の歌11」で「石の魚」「桜の園」が歌われた。

安森ソノ子氏 11月26日 東京の如水会館にて一般社団法人日本詩人クラブより、永年表彰を受けた。名誉会員となる(三十五年前からの日本ペンクラブでの活動、委員を経る)

吉田定一氏 9月16日「童謡100年と『サッチャー』の世界」(アプラホール) | 武鹿悦子さんを迎えて―聞き手・吉田定一。10月18日「ハロウィン2018フェスティバル」(あすとホール)で、「三つの優しきうた」(作曲・溝川辰夫) | 「おかあさんあかね」「うしさんうふふ」「あめがふる」が歌われる。11月4日「黄金のあみコンサート」(ココプラザ)で「カンガルーさん」(作曲・岡田正昭)が歌われる。

藤谷恵一郎氏・原圭治氏の合同出版会が11月23日に奈良の「リーガル春日野」にて開催された。会員など15名の参加があった。

現代京都詩話会創立40周年記念祝賀会が12月1日にザ・パレスサイドホテルで開催された。会員など51名の参加があった。

《会員の今後の予定》

詩の実作講座
12月22日(土) 第440回 午後6時〜9時 モダニズムの詩人尾崎まこと
1月26日(土) 第441回 午後6時〜9時 パトリック・モディアノ 小説の中の詩 左子真由美
2月23日(土) 第442回 午後6時〜9時 ビートルズの詩 寺沢京子

朗読文化の会・あい
第三朗読会「高村光太郎に出逢いなおそう」
日時 2月5日(火) 午後2時開始
場所 ココプラザ大阪市青少年センター(新大阪)
会費 五百円
ゲストによる朗読のコーナーがあります。希望者募っています。

連絡先 田村照視 075-314-6449

練習日(どなたでも参加できます)
1月30日ココプラザ703号室
3月12日ココプラザ703号室
リヴィエール合同出版会

永井ますみ、市原礼子、石村勇二の三人の合同出版会です。
日時 3月16日(土) 午後2時から
場所 大川の船上
会費 六千円

連絡先 嵯峨京子 090-7483-8240

生活語詩集朗読会
アンソロジー現代生活語詩集刊行に伴う全国規模の朗読会
場所 キャッスルホテル
日時 3月31日 開始時間未定

連絡先 竹林館(左子真由美) 06-4801-6111
詩を朗読する詩人の会・風
五百回記念会
ゲストは設けません。お出で下さる方がゲストです
場所 グランキューブ大阪(中之島)
日時 1月20日午後1時30分開始
会費 千五百円

連絡先 永井ますみ 090-4289-8225

※「風」の世話人が増えました! 市原礼子、榊次郎、左子真由美、永井ますみ、中尾彰秀(代表) 吉田定一

朗読する詩人の会・風定例会
2月17日 南森町MAG午後2時
3月17日 スペース・ふうら 深江橋(新しい場所です、問合せは永井へ) 090-4289-8225

兵庫現代詩協会よりご案内
第8回ポエム&アートコレクション展(会員の詩画展)
会期 2019年1月17日(木)〜22日(火)まで
平日・10時〜17時 土・日 9時〜17時
会場 神戸文学館 〒657-0838 神戸市灘区王子町3の1の2

*特別イベント1月19日(土) 14時〜申込は神戸文学館へ。
078(882)2028

講演会 講演 たかとう匡子
演題 兵庫・神戸を生きた詩人を語るVI―【杉山平一―】
法意識の抒情詩人

連絡先 田村照視 075-314-6449